

広島工業大学

同志会誌



第11号

昭和52年

広島工業大学学歌

歌詞 広島工業大学選定
作曲 井上 佳

緑なる

緑なる三宅

深きいわれの

御倉を開き

倫哲愛を誇る

我等が学府

見よや行くて

精気の学士

研学の道

倚りてぞ極む

ああ

広島工業大学

心に愛を



目 次

※提 言

会誌発刊と同窓会の定義について 会長 中原重男 1

※会員だより

在学中の思い出と近況	古本克之	3
企業と労働組合	山岡康彰	4
10周年記念誌の編集を終えて1年	小西正明	4
近況報告	前田誠一郎	5
山はよいとこ	片山修	6
建築審査課にて思うこと	岩田幸二	7
雑感	矢山正男	8

※学園だより

井槌義明氏学園理事長退任	9
大学事務組織の改革	9
鶴学園創立20周年記念行事	10
入学定員増成る	12

※同窓会だより 14

議事録 14

会計報告

昭和51年度会計中間報告	15
奨学金報告	16
青春	16
第2回欧州理工学研修旅行	18
同窓会会則	19

第12回卒業生名簿 23

附 教職員名簿

提　　言

会誌発刊と同窓会の定義について

会　長　中原　重　男



前年10周年記念誌を発刊したのを期に、会誌の形態を変えることとなりました。外見は多少見劣りがしますが、内容においては、より充実を計りたいと思います。内容の充実、即ち、より興味をもって会員の皆さんに読んでいただきためには、どのようにしたらよいか、今迄にも色々と検討を行い改善してまいりました、その具体例としては写真の掲載を多くしたり、職場便りを掲載したりしてまいりました、しかし会誌を全員のものとするためには、より多く一般会員からの寄稿が望まれます、たとえば職場ニュース、会員の研究成果、又は一口メモ程度のものでもけっこうですから、どしどしお寄せ願いたい。

会誌は会員同志が結ばれる最大の情報手段であり、形はあっても、今後も発刊を続けてゆきますのでご協力をお願いします。

さて我々の同窓会も発足以来11年目に入りました、この10年間に考えつくことは、おおよそ取入れ、実行してきました、その表面的な活動を見る場合には、我々の会は十分活動していると言えるでしょう。

しかし、現実には、このような活動も一部の役員の努力によってのみ支えられてきているのが実情であります。これらの活動を全体のものとするためにも、同窓会とは何かということを今一度考え方を改めてみましょう。

同窓会とは、いわゆる非公式集団に属しその存在価値も非常に不安定な集団であります。

これを、利害得失のみによって律しようとする時はその存在価値は無に等しい。

我々は同窓会の存在価値を何に見出すか、それは一般的に言われるような懐古趣味的なものも無いとは言えぬ、それは時と所を同じくして学んだ仲間には友情と信義によって、かたく結ばれたものがあり、なつかしさがある。10年の時の流れの間に卒業した仲間には時の隔により互に一面識もない者が多くろう、それらの仲間が大同団結するための条件を何に求めるか、それは我々に共通するものは何か、から考えてみましょう。

それは、人生の最も多感な青年期を4年余り、同じ教育方針の下で、同じ学舎で学んだ

事であります。それらの仲間が職を得て社会に入り、学園で学んだ技術と精神をもって社会に奉仕し身の糧を得ている、それらの人々が、名前を連ねている集団が、我々の同窓会であります。即ち同窓会は、工大の教育方針にのっとり、本学で学んだ技術と精神で社会に奉仕する団体であると、定義してよいでしょう。

我等の仲間は、すでに7,000名余りになろうとしています。人間は個々においては非常に弱いものであり互に協力することにより、その目的をより強力に、おし進めることができます。

お互の連携を深めることにより、我々の同窓会をより発展さすよう、一層のご協力をお願いします。



~~~~~会員だより~~~~~

## 在学中の思い出と近況

古本克之

昭和36年広島工業短期大学に入学を許可されてから2ヶ月くらい、建設中の校舎を見に何度も足をはこんで完成を待っていたのが、昨日今日のことのようになつかしく思い出されます。

第1回生という立場、学風の礎が我々の学生生活で育ちもし崩壊もするのだという使命感にも似た自觉。

クラブ活動は空手部をえらびました。部活動といつても松林の間を自分たちで整地し、道衣をつけ、9人位大声を出すことで、お互をはげまし、練習を続けました。他の部との交流といつても、おたがい部員の少ないクラブ同士のこと、我々も道衣のまま、重量拳を行い、卓球台に向いてラケットを振る。そういうことが可能な時だったのでしょう。

少ない部費、ドカチン、夜は皿洗いでかせぎ、合宿を計画。はじめて、神戸で学生選手権大会に出場した時の感激と期待一しかし、先輩をもたない者の悲哀淋しさは覆いきれず、よき先輩たらんとし、歴史をつくるのは我々だと思い悩んだことなど、今、思い出すと、すこしこっけいです。

第1回の卒業生として、今の篠籠本照明に入社しました。学生時代アルバイトをさせてもらっていたことも縁となったようです。

広島市内はもとより中・四国、九州の会場に照明機材を車に積み込んで、朝早くから夜お

そくまで、公開会場において、舞台照明の一切を受けもつ仕事です。華やかな舞台、熱況をもりあげるべく、裏方さんとして少しの手抜き、油断をも許されない仕事です。でも盛会に終ったときのよろこびは公演者に優るとも劣らぬものだと思います。我々の仕事には景気・不景気は、他の会社のそれと少し異なるように思います。盆・暮・正月もありません。しかし頑張ります。お互職種・職場は異なるとも工大で培われた根性をもって、母校の発展と共に、我々も、もっと大きく成長していきましょう。

皆々様のご健康とご発展を心から祈りベンを置きます。



学内風景(9号館)

# 企 業 と 労 働 組 合

中国工業㈱ 山 岡 康 彰

同窓会の皆さん、お元気ですか。

私は昭和45年機械工学科を卒業して、高圧ガス容器のトップメーカーである呉市広町の中国工業㈱に入社しました。早いものです、入社して早くも丸7年が過ぎようとしています。作業改善課と称して標準時間設定といった作業能率アップを推進する課を経、輸送機器（一般にコンベヤー）設計を担当、そして、現在、社の主柱である高圧ガス容器の設計に専念しています。

入社当時は、所得倍増計画に乘じ好業績をあげていた当社も残念なことにドルショック以来、業績は低迷を続け、更に、一昨年労働争議がそれに輪をかけ今や空中分解寸前の状態に追い込まれています。

「労働争議」、それは学生時代には余り耳にした事のない言葉でした。しかし、社会人になってみて、その重大さが身にしみて分ってきました。私は、企業あっての労働組合であり、労使共お互の心の和と責任ある行動をとりながら仲良くやる事が大切であると思うのです。企業が利益を増せば増す程、私達の生活も向上するのです。それとは逆に、企業

は全てを榨取するものだと経営者を敵視する前近代的なイデオロギーをもった一部の幹部に振り廻されている我社の社員に幻滅を感じたのが2年前の事です。そして、これでは中国工業の将来はない、新しい中国工業を創り直そうとした同志によって新しい労働組合（同盟中国工業労組）が結成され、明日に向って大きく羽ばたこうとしています。お陽様西、西という惰性の生活を送っている社員の質的向上と共に、いかにして当社を建て直し延いては発展させるという大目標に達成できるか否かは私達の腕にかかっています。

こうして、きびしい状況に立てば立つ程、あの楽しかった、また、社会に甘えていた学生生活が恋しく思えてなりません、世の中は予想外にきびしいものだと感じる今日この頃です。

先輩、後輩あわせて4人、全員元気で毎日を全力投球で頑張っています。

同窓会の皆さん。どうか暖かいご支援とご指導をお願いしまして私の近況報告にかえさせて戴きます。

## — 10周年記念誌の編集を終えて 1 年 —

編集責任者 小 西 正 明

昨年3月、多くの人々の協力を得まして、同窓会会誌10周年記念特集号を編集し、母校と同窓会10年の歩みのようすを一冊の記念誌として発刊することができ会員の皆さまの手もとに届けることができました。これも、ひ

とえに、記念誌発刊にご協力いただきました方々の温かいご支援の賜と会長をはじめ役員、編集委員一同心より感謝しております。

あれから1年たった今、この記念誌をひもときながら、改めて10周年記念誌として、

まとめることがどんなに大変だったことか、目に見えない多くの人々のご支援の賜で、でき上っていることが思い起されます。そんな時、いつも心より有難うございますと尊い大切な仕事の大任をなんとか果すことができましたことの喜びとともに感謝の気持がこみあげてまいります。この記念誌を手にするたびに、特に10年の歩みを目で顧みることのできる口絵写真集作成のためご心苦され、編集委員より以上に力をいれ、まとめていただいた母校に在職され幹事の一人であられる砂田謙二さん(電子工学科勤務)に対し、またいろいろと編集のためご相談にのっていただいた母校、幹事の皆さんに対しても感謝の気持でいっぱいです、このように多くの人々の目に見えない心よりのご支援の有難さを痛切に感じております。

この記念誌を手にした卒業生より、すばらしい記念誌だと、母校のようすも卒業生の動向もよくわかり、立派な記念誌だと電話で、手紙で、いいものを届けてくれたという声を耳にする時、やねこかったことは全て忘れ、心温まるを感じるとともに、10年の歩みのまとめにめぐり合せたご縁に感謝の気持がこみあげてまいります。この記念誌が私達の心のふるさと、母校広島工大とのきずなとしていついつまでも大切に愛読され、見守られますよう祈りつつ、将来20年誌、50年誌、100年誌へと継続することを切望するものです。最後に母校広島工大の限りなき発展と会員皆さんのご健闘とご活躍を祈念しつつ、お互いに工大の光として励まし合い助け合い頑張ってゆきたいと思います。以上

## 近況報告

四国土木㈱ 前田誠一郎

はじめに、このたび土木工学科創始者であられた桜井先生が、お亡くなりになられ、非常に残念に思うと同時に、心からの冥福をお祈りします。

さて卒業して早や三ヵ月がたちました。卒業前は、まだ大学にいたい様な気でしたが、ようやく、現場の雰囲気になれてきたところです。今は、香川県宇多津町の宅地造成現場で働いています。ここで、污水排水用のヒューム管のすえ付けと、雨水の排水渠を造っています。

大体の仕事の内容を書きますと、この会社は某大手建設会社の下請けですので、実際に

人夫連を動かして仕事をします。大体の測量は元請けがしていますので、それによって仕事をするわけですが、こここの現場では、私は元請けの測量を手伝いながら、自分の会社の仕事もしています。この様な小さな会社において、大学で習った様なことができるるのは、どこでも当然でしょうが、人を上手に使うことが要求されます。仕事に応じて、人をどのように配置して動かせば良いか、頭が働くようになることが要求されます。その時もちろん金のことも考えなければなりません。したがって、そのようになるには、仕事の内容を知る必要がある、とのことで、まだ今のうち

は、仕事の指図をすると同時に、自分も人夫さんと一緒にスコップを持って働きます。

こういう仕事では、特に人とのつき合いをうまくすることを言われます。このあいだ、こういう話を聞きました。『人』という字を考えて下さい、わずか二画の文字ですが、その一画一画が、お互いを支えて成り立っています。つまり、人はお互い助け合って生きているということです。それから、いつも自分一人ではないということ、一生懸命に働いている時も、さぼっている時も、いつも誰かが見ている、ということを言われました。このことは、これから卒業する人も、まだそうでない人でも覚えていれば良いのではないでしょか。

小さな会社では、学校で習ったことを応用することより（全然ないわけではありませんが）人を上手に使いこなすことが、より要求されます、が自分にそれだけの力があれば、確かに大きな会社よりも、速く上へあがることができるもの、学校で習ったことを応用したい方は、設計方面へ進んだら良いのではないか。

自然と後輩の方へのアドバイスのようになりますが、少しでもためになつたら幸いで

す。  
社会に出ると、学生時代が懐かしく思われます、まだ在学の皆さん、十分に学生時代を楽しんで下さい。

## — 山 は よ い と こ —

安佐地方森林組合指導課 片 山 修

安佐地方森林組合という団体に入って、指導課に配属されました。ここでは造林施業地の測量、作業道・林道の測量、設計計画書の作成等土木の分野にはいるものから育苗、購買、憩いの森、ハイキングコースの管理（これはゴミ掃除）まで種々の仕事をしています。森林組合の仕事の対象はその名通り山林であるために、測量に関してもかなりラフで、トランシット等高級な測量器械を用いず簡単なハンドコンパスを用いている。その精度としても約100mを目標としている。広島市の北部の山林は急傾斜地であり、その平均傾斜度は35°であるために、最初の頃は（現在でもそうだが…）単に歩くだけが精一杯でとても測量どころではなかった。山という所は、車で下まで行き30分位歩いて、そこでやっと

施業地に着くというようなもので、さらに山を越え、谷を渡って行けば、もしケガをした場合でも直ぐに病院という訳にはいかず、本当にしんどい所である。しかし仕事としては結構おもしろいと思っています、というのもこの森林組合では先に書いた様に図面から外業まで多種多様であり、その一つ一つが独立している訳ではないので、いい加減に飽きてきたら次の事をするというように、ある程度自分の気分に合わせて仕事ができる点があるからです。

だらだらと意味もなく書いて来ましたが、結局山は歩くだけではつまらないがその辺にある枝ぶりのよい木とか、モミジとかケヤキを搜して歩けば結構楽しみのある所である。

## 建築審査課にて思う事

広島市役所建築審査課 岩田 幸二

私が広島市役所（建築審査課）に入った昭和48年度は建築ブーム、特にマンションブームとも呼ばれた。また、建築基準法改正時でもあったため、この法改正前に、建築確認申請を提出しようと、かなりの件数が殺到した。法改正は、皆様のご承知の通り絶対高が廃止され、新たに容積率制限、北側斜線、隣地斜線が加わり、かなり建物のボリュームを縮少せざるを得ない状態に至った。よって、建築ブームと重なりボリュームある建物が、各地に建設された。

その為、各地の地域環境が変化し、その地域環境の変化に順応できない住居が、日照問題、騒音問題、電波障害と、さまざまな問題を投じてきた。これらの問題も最近では中高層指導要綱・法改正・不景気風等で影を潜めている。逆に不況の為か、狭い敷地・崖地・道路のない敷地等に問題が多い。例えば、「この通路をかってに通っては困る。」とか、「建ぺい率が無いのでは？」といった具合に、次から次へと出てくる。建築主側として見れば、「敷地を最大限利用したい。」又、「ここにこれだけのボリュームを立てないと利益が上がらない。」と主張する。

それぞれの立場を考えてみると、もっともな事ばかりである。しかし、その中には自分の権利の主張が余りにも多いのに気が付く。

自由主義の自由を履き違えて、エゴの自由を通そうとしている。これが本当の自由と言えるであろうか。例えば、このような電話を受け取った事がある。「うちの建物ギリギリに建築しているが、これでよいのか。どうにかして欲しい。」そこで私は、「うちの建物ギリギリ」という言葉を聞いて、「あなたは今建築中の建物とどのくらい離れているのですか？」、「ギリギリです」と言って電話が切れた。又「隣の建物の便所を浄化槽にしては困る……臭いがする。」と言う苦情である。調べて見ると自分の前の測溝に流れようになっていた。なるほどと思ったが、よく見ると自分は浄化槽を設置しているではないか。“自分の事を棚に上げて……”と言いたくなる。このような問題は、社会に幾らでもある。例えば、ゴミ焼却場の問題にも同じ事が言えるような気がする。考えて見るに、産業の発展・人口の増加等に伴ない建築の必要性が重要視される。1軒の建物を建てるにも地域環境の変化を住民1人1人が把握して、個人の主張を述べてもらいたい。我々建築に携わる者は、環境の変化を適格に判断し、指導して行きたいと思う。

何んにしても、個々の和が根底になくては、よりよい社会は形成されない事をお互い銘記すべきである。



学内風景(ビル)

## 雑 感

経工会46年度卒業生代表 矢 山 正 男

社会に入り、1, 2年間は各々の会社にて無我夢中になって仕事に取り組み、ファイトと情熱で日一日を過ごしている。各関係の一応の国家試験も取得し、アッという間に過ぎ去って行く時期である。これが3年も経過すると、会社にも慣れ会社全体の組織、内状も一応解かるようになる。社会情勢も一段と厳しく相成り、中には労使関係でのサラリーマンの弱さを感じる者もある。その中の就職線も厳しいと又、見受けられる。そして経工会OBも転職の話も聞く頃である。これも決して他人事の話では無く、皆が真剣に取組み、考えなくてはならない問題であると思われる。事実、我が親友からも又、転職の話を聞いている今日この頃の次第である。

自分に適した仕事に就職出来る事が幸福につながるのは当然な事であろう。しかし、現実にはなかなか、その様に理想的に事が運ぶとは限らない。会社の仕事の内容は明確には

解かりにくい。又、自分の適性も自分なりに把握出来ている人間が何人いるだろうか。そして社会情勢での供給と需要のバランス、その他、色々な条件がこれらの障害に成っていると思われる。実例としては「高校を卒業してすぐ就職した者の六割が転職をしていて、職業訓練所etcを通じ、別の会社に行っている模様であると聞く。そして大学を卒業した者もやはり、少なからず転職する人も有ると聞く。」が、これらが掲げられるであろう。その為にも、その様な事がより早く理解出来る様にするにも縦の関係での同窓会の役目一つがここにあると思う。そして当然、横の関係も又、同様であると思われる。とにかく、縦も横の関係も密なるお互いの情報の交換がなければ正確な事は解らない。一人の考えでは限度があるはずです。私たちはその事を学生時代に勉強してきたはずです。それを互いに肝に銘じて頑張りましょう。



入 学 試 験 風 景



昭和52年2月6日(日)

## 井槌義明氏 学園理事長を退任



去る、昭和51年10月23日学園創立20周年記念式典後に開催された理事会において井槌義明氏は健康上の理由により同日付をもって理事長の職を退任された。

今後は学園の名誉理事長、評議員として指導助言をしていただくことになった。

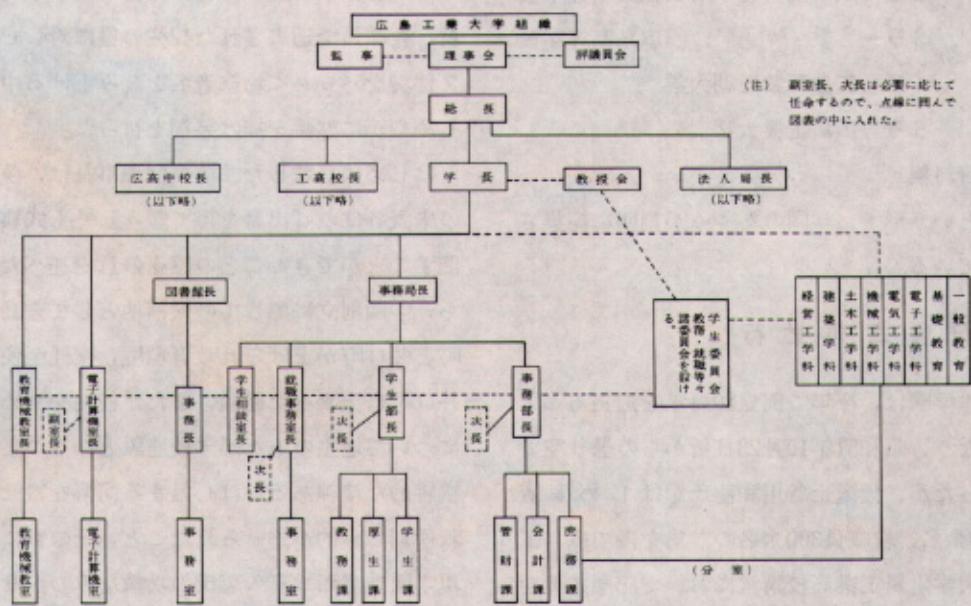
井槌義明氏は、医業のかたわら昭和32年11月27日学校法人鶴学園設立と同時に本学園初代理事長に就任されじらい18年余の間、中学時代に本学園校祖鶴虎太郎先生の薰陶を得ら

れた精神的指導を充分に發揮され恩師鶴虎太郎先生の「教育は愛なり」の信条に徳し広島工業大学、附属工業高等学校、附属広島高等学校、附属中学校の設置認可に努力し学園発展と充実に努め今日の学園への強固な基盤をつくり大いに貢献された。

また、校祖の教育意欲を永遠に伝える機関としての財團法人鶴虎太郎奨学会に対し叙勲を機に1,000万円の寄付をされた。

社会的には、医業を通じて奉仕されるとともに昭和2年5月から昭和20年8月まで18年余の歳月、私立大日本愛仁会看護助産女学校

### 大学事務組織の改革



講師として子女の教育に尽され、戦後間もなく昭和23年4月から現在まで広島市轟町小学校教育振興会長として地域の教育に力を尽され、また恩師鶴虎太郎先生の創設校である広島電機学園に昭和26年5月から同42年8月まで、さらに広陵学園に昭和26年11月から同42年11月まで、それぞれ理事として就任され社

会的、国家的教育事業に大いに尽力され、その功績が認められ昭和47年春の叙勲に「勲三等瑞宝章」を得られた。

同氏が今後ますますご健在で本学園の発展を見守り、ご支援くださるよう祈ってやみません。

〔広島工大44号より転載〕

## 鶴学園創立20周年記念行事行なわれる

### 「学園20年史」発刊

先の「広島工業大学10年史」に続き、鶴学園の20年の歴史が編集されているものであり鶴学園年表に始まり

第1編 1章一校祖：鶴虎太郎先生

2章一創立者：鶴裏先生

3章一回想記

第2編 1章一学校法人鶴学園及び法人局

2章一広島工業大学附属工業高等学校

3章一　　〃　　広島高等学校

4章一広島工業短期大学

5章一広島工業大学

### 資料編

という形で、学園のあゆみが刻明に編集されている。

### 記念式典挙行

本学園は、今年で創立20周年を迎えることになり、昭和51年10月23日折からの曇り空であったが、代議士谷川和穂氏をはじめ来賓210余名、教職員300余名の参集を得て広島工業大学附属工業高校講堂において記念式典を挙行した。



午前10時加藤正照理事の開会の辞に始まりつづいて、本学園の教育、経営に従事した役員、教職員で逝去された42柱の靈に対しビアノ伴奏をバックに物故者名を読み上げる中でしめやかに黙禱を捧げ冥福を祈った。

はじめに登壇した井植義明理事長は、多くの来賓各位のご出席を得て賑々しくも式典を催すことができたことの感謝の意を述べたのち、学園創立に際しての候補地として吉島新町と井口町が上げられ教育環境、交通至便な井口町に決まった経過、また、校地を求めるについて地主の方々が学校建設ということで犠牲的な精神あるいは心温まる同情を寄せられ所期の目的が達せられたこと、その裏には現学園監事西本喜久恵氏の功績をみのがせないこと、また、学園創立に先立ち、学園発祥

の礎となった各種学校広島高等電波学校創設に際し、装備倉庫社員（現会長）古川史朗氏が深く教育に理解を示され校舎を貸与せられたことによって開校の運びとなりこれが逐次に拡大して今日の大学のキャンパスに続いたこと、校祖鶴虎太郎先生の薰陶が大いに役だったこと、鶴総長が校祖の遺訓を具現すべく努力したことなど苦難の発展の歴史を語り、理事長として学園の20年を顧りみて式辞とした。

ついで、元文部政務次官、自民党文教部会長谷川和穂氏、広島県私立中学高等学校協会長山中通廣氏の祝辞をいただいた。

ついで、文部大臣永井道雄氏ほかからの祝電披露があり、鶴総長挨拶と続いた。

鶴総長は、まず来賓各位に謝辞を述べ創立20年の過去を振り返って困難な学園創立を成し遂げ得たことは、第1に校祖鶴虎太郎先生の過去の教育のいろいろの遺徳、業績に支えられたこと、第2に広島高等電波学校創立に際し芸備倉庫株式会社社長古川史朗氏の私財を投げうつての校舎提供等の援助を受けたこと、昭和33年井口町に工業高校の土地を獲得するにあたり西本喜久恵氏（現学園監事）、西尾秋登氏（元学園評議員）、はじめ地元のすべての方々に好意をもって迎えられたこ

と、また、昭和36年工業短期大学、38年に工業大学を五日市町に設立するにあたり元五日市町長平野馨氏、当時の町会議員大内鉢人氏ほか地主の方々並びにその他多くの方が好意をもって土地を提供され歓迎されたことに対し深謝しつつ20年の足跡を語った。

つづいて、本学園建学の精神「教育は愛なり」について校祖鶴虎太郎先生は、学生生徒を心から愛し、愛に基づく教育をされた数々の実績、校祖の遺訓が創られた経緯を話され、現に遺訓を具現すべく努力していることの実例を示された。また教育方針の「常に神と共に歩み社会に奉仕する」について話され、先に行われた山中通廣先生の祝辞の中に「私学の危機」について学校の教育方針を皆んなが守り育ってこそ私学の特色ある教育ができる。私学は教職員の転勤はなく心おきなく教育に集中できる。むしろ、私学の危機という言葉があるとすれば、私学の危機という言葉をもって何かの困難をそのせいにして逃避してしまう理事者の、その言葉の中、その心中にこそ私学の危機があることを述べ、また、今後の抱負を披瀝し挨拶とした。

つづく表彰では、役員功労者3名および10年以上永年勤続者48名ならびに一般功労者9名に、その功労に対して井槌理事長より表彰状と記念品を贈られた。これに対し、永年勤続者代表として高野忠吾つづいて一般功労者代表として、河内義就設計事務所長河内義就氏が謝辞を述べた。

つづいて、久留米大学医学部教授脇坂順一先生による「シュワイツァー博士と共に生活して」という記念講演が催され聴衆者に多大の感銘を与えた。



# 入学定員増成る

|       |      |       |      |
|-------|------|-------|------|
| 電子工学科 | 140名 | 電気工学科 | 140名 |
| 機械工学科 | 240名 | 土木工学科 | 140名 |
| 建築学科  | 140名 | 経営工学科 | 140名 |

文部省の大学設置基準は学生数に対して必要な教員数、校舎面積を規制し、その校舎面積の6倍の校地面積を要求しております。本学の現在の学生数は3,829名ですが、校舎面積は学生数3,400名余を収容するに足り、また教員数からみますと、現在教員数は、総学生数3,100名に相当する数になっております。設置基準に照しまして校地の不足が一番大きな問題点です。

しかし、本学の屋外および屋内体育施設の面積は全国大学体育連合の「大学体育施設の基準（案）」を十分に満足していることを思う時、沼田町の工大山荘のある山林の一部を整備いたしまして、文部省から正式の校地としての認定を受けて学生の定員増を実現し、学生実員を定員に近づける準備をいたしてお

りました。

私立大学の水増し入学がよく問題になり、本学も昨年までは水増し入学をしておりましたが、今年は沼田の自然味豊かな土地19万m<sup>2</sup>に研究施設やグランドを設けることによってこれが校地として認められ、教員陣容の補充と、建物増築計画とが相俟って学生の入学定員の940人への増員が認められましたので、今年の入学者数970人は僅か3%の超過にすぎません。その上、昨年新聞紙上で厳しい批判をあびました授業料の先取りや、補欠入学に対する寄附金も本学は建学の精神から一度もとったこともなく、誠にクリーンで、苦しい財政事情に対して歯を喰いしばって頑張り建学の精神に忠実たらんと努力いたしております。

どうぞこの様な本学の教育方針、建学の精神が理想的に遂行されますよう、ご指導ご鞭撻下さいますことをお願いいたし、ご挨拶の言葉といたします。（広島工大36.42より）

## 過去4力年の入試の競争率及び平均点（1次のみ）

〔48年度1次〕

| 学科    | 項目            | 志願者数          | 受験者数         | 合格者数 | 倍率  | 平均点 | 最高点 | 最低点 |
|-------|---------------|---------------|--------------|------|-----|-----|-----|-----|
| 電子工学科 | (2)<br>435    | (2)<br>426    | (1)<br>163   | 2.61 | 196 | 297 | 159 |     |
| 電気工学科 | 401           | 393           | 143          | 2.75 | 190 | 268 | 155 |     |
| 機械工学科 | 702           | 682           | 259          | 2.63 | 184 | 270 | 148 |     |
| 土木工学科 | 561           | 549           | 162          | 3.39 | 198 | 261 | 167 |     |
| 建築学科  | (14)<br>835   | (14)<br>815   | (5)<br>265   | 3.08 | 196 | 268 | 167 |     |
| 経営工学科 | (2)<br>393    | (2)<br>389    | (1)<br>136   | 2.86 | 173 | 234 | 141 |     |
| 計     | (18)<br>3,327 | (18)<br>3,254 | (7)<br>1,128 | 2.89 |     |     |     |     |

[49年度1次]

| 学科    | 項目 | 志願者数        | 受験者数        | 合格者数         | 倍率   | 平均点 | 最高点 | 最低点 |
|-------|----|-------------|-------------|--------------|------|-----|-----|-----|
| 電子工学科 |    | (3)<br>561  | (3)<br>547  | (1)<br>164   | 3.33 | 188 | 246 | 157 |
| 電気工学科 |    | 455         | 443         | 142          | 3.11 | 174 | 257 | 141 |
| 機械工学科 |    | 749         | 734         | 232          | 3.16 | 168 | 252 | 135 |
| 土木工学科 |    | 484         | 471         | 141          | 3.34 | 175 | 252 | 141 |
| 建築学科  |    | 09<br>786   | 09<br>766   | (4)<br>261   | 2.93 | 176 | 267 | 144 |
| 経営工学科 |    | (3)<br>495  | (3)<br>490  | 128          | 3.82 | 158 | 226 | 135 |
| 計     |    | 29<br>3,530 | 29<br>3,451 | (5)<br>1,068 | 3.23 |     |     |     |

[50年度1次]

| 学科    | 項目 | 志願者数        | 受験者数        | 合格者数        | 倍率   | 平均点 | 最高点 | 最低点 |
|-------|----|-------------|-------------|-------------|------|-----|-----|-----|
| 電子工学科 |    | (2)<br>473  | (2)<br>464  | (1)<br>185  | 2.50 | 187 | 257 | 158 |
| 電気工学科 |    | 466         | 460         | 163         | 2.82 | 185 | 244 | 152 |
| 機械工学科 |    | (2)<br>825  | (2)<br>805  | (2)<br>298  | 2.70 | 172 | 274 | 140 |
| 土木工学科 |    | 420         | 412         | 160         | 2.57 | 177 | 245 | 147 |
| 建築学科  |    | 02<br>668   | 02<br>652   | (6)<br>272  | 2.39 | 177 | 249 | 143 |
| 経営工学科 |    | (3)<br>424  | (3)<br>418  | (1)<br>166  | 2.51 | 169 | 286 | 136 |
| 計     |    | 19<br>3,276 | 19<br>3,211 | 13<br>1,244 | 2.58 |     |     |     |

[51年度1次]

| 学科    | 項目 | 志願者数        | 受験者数        | 合格者数         | 倍率  | 平均点 | 最高点 | 最低点 |
|-------|----|-------------|-------------|--------------|-----|-----|-----|-----|
| 電子工学科 |    | (2)<br>498  | (2)<br>492  | 188          | 2.6 | 202 | 271 | 170 |
| 電気工学科 |    | (1)<br>431  | (1)<br>422  | (1)<br>164   | 2.6 | 179 | 243 | 151 |
| 機械工学科 |    | 661         | 647         | 276          | 2.3 | 178 | 266 | 136 |
| 土木工学科 |    | 335         | 329         | 154          | 2.1 | 175 | 267 | 134 |
| 建築学科  |    | (13)<br>633 | (13)<br>625 | (5)<br>265   | 2.4 | 179 | 266 | 142 |
| 経営工学科 |    | (6)<br>435  | (6)<br>431  | (3)<br>171   | 2.5 | 169 | 247 | 136 |
| 計     |    | 29<br>2,993 | 29<br>2,946 | (9)<br>1,218 | 2.4 |     |     |     |

## ~~~~~ 同窓会本部だより ~~~~

### 昭和51年度議事録

#### ○昭和51年度第1回幹事会

場所：同窓会室

日時：51年5月7日（金）17:00～18:30

- 議題：1. 総会の決算報告、反省  
2. 体育祭援助金について  
3. 奨学金について  
4. 会報発刊について

#### ○昭和51年度第2回幹事会

場所：同窓会室

日時：51年7月9日（金）17:00～18:30

- 議題：1. 奨学金について  
2. 会報について  
3. 名簿について  
4. 海外研修旅行について

#### ○昭和51年度第3回幹事会

場所：同窓会室

日時：51年9月3日（金）

- 議題：1. 久保先生学園葬について  
2. ヨーロッパ研修旅行について  
3. 奨学金について

#### ○昭和51年度第4回幹事会

場所：同窓会室

日時：51年10月9日（土）

- 議題：1. 大学祭援助金について  
2. 奖学金について  
3. ヨーロッパ研修旅行について  
4. 20周年記念寄附について

#### ○昭和51年度第5回幹事会

場所：同窓会室

日時：52年1月17日（火）

- 議題：1. 会誌について  
2. 卒業記念品について  
3. 名簿について  
4. ヨーロッパ研修旅行について

#### ○昭和51年度第6回幹事会

場所：同窓会室

日時：52年3月4日（金）15:00～17:30

- 議題：1. 総会について  
2. 会誌について  
3. 来年度活動方針について

#### ○昭和51年度第1回役員会

場所：広島労働会館

日時：51年5月22日（土）18:00～21:00

- 議題：1. 総会懇親会について  
2. 体育祭援助金について  
3. 奨学金について  
4. 会報発刊について  
5. 岩国支部援助金について

#### ○昭和51年度第2回役員会

場所：広島労働会館

日時：51年7月17日 18:00～21:00

- 議題：1. 会報について  
2. 奨学金について  
3. 援助金規定について  
4. ヨーロッパ研修旅行について  
5. 今後の方向について

#### ○昭和51年度第3回役員会

場所：広島労働会館

日時：51年9月18日 18:00～21:00

- 議題：1. 奨学金について  
2. ヨーロッパ研修旅行について  
3. 卒業生の再就職の件

#### ○昭和51年度第4回役員会

場所：広島労働会館

日時：51年10月16日 18:00～19:30

- 議題：1. 20周年記念寄附について  
2. 大学祭援助金について  
3. 奨学金給付について  
4. ヨーロッパ研修旅行について

一昭和51年度会計中間報告一 昭和52年1月20日現在

| 項目       | 予算        | 支出        | 残高        |
|----------|-----------|-----------|-----------|
| 会誌発行費    | 1,655,000 | —         | 1,655,000 |
| 会報発行費    | 485,000   | 384,850   | 100,150   |
| 総会開催費    | 1,430,000 | 1,193,140 | 236,860   |
| 在学生援助費   | 650,000   | 450,000   | 200,000   |
| 卒業記念品代   | 500,000   | —         | 500,000   |
| 通信費      | 100,000   | 49,659    | 50,341    |
| 交通費      | 50,000    | 45,680    | 4,320     |
| 会議費      | 170,000   | 102,020   | 67,980    |
| 役員手当     | 122,000   | 29,000    | 93,000    |
| 支部費      | 100,000   | 30,000    | 70,000    |
| 消耗品費     | 100,000   | 180,830   | △ 80,830  |
| 奨学基金繰込み金 | 343,000   | 343,000   | 0         |
| 備品費      | 50,000    | 69,435    | △ 19,435  |
| 委託費      | 300,000   | 92,000    | 208,000   |
| 調査費      | 100,000   | —         | 100,000   |
| 鶴奨学会寄付金  | 100,000   | 100,000   | 0         |
| 予備費      | 200,000   | 378,650   | △ 178,650 |
| 合計       | 6,455,000 | 3,448,264 | 3,006,736 |

備考 (1) 消耗品費赤字分は3年分の封筒購入の為  
(2) 予備費赤字分は鶴学園20周年記念品代の為

## 同窓会奨学金報告

### 同窓会奨学生名簿

| 年次 | 学 科   | 学生番号   | 氏 名   |
|----|-------|--------|-------|
| 4  | 電子工学科 | 481051 | 笹部 孝  |
| 3  | 〃     | 491058 | 手塚 実  |
| 3  | 土木工学科 | 494073 | 高島 康男 |
| 2  | 電気工学科 | 502110 | 村上 真一 |
| 2  | 機械工学科 | 503188 | 作田 一宏 |
| 2  | 経営工学科 | 506046 | 重田 浩一 |
| 1  | 電子工学科 | 511075 | 仁内道和  |
| 1  | 電気工学科 | 512013 | 岩崎 譲治 |
| 1  | 建築学科  | 515182 | 川本 幸司 |
| 1  | 経営工学科 | 516055 | 妹尾 彰三 |

青

春

土木工学科 3年次 高嶋 康男

今春ようやく4年生になる。やっとという感じが強い。普通なら大学を卒業して4~5年目、中堅どころにさしかかろうとしている頃である。なぜ、こういうことになったのか。私が高校に入った昭和40年頃は未だ大学進学率が20%程度で、工業高校や商業高校などの実業高校へ進むものもかなり居た。折しも、高度経済成長期でもあったのである。兄2人は工業高校の電気科へ進み、私は兄らからのすすめで土木科は就職にいいということで、何のためらいもなく兄らと同じある県立の工業高校土木科へ入学した。1年生の時は、何ということもなく過ぎ、2年生の頃から進学したいという風な気になってきた。そ

れというのも工業高校ではあったが、毎年10人前後は大学進学をしていたからだった。それらの中には現役に混じって浪人をして大学へ入ったと思われる人もいた。私のクラスでは、私を含めて3人が大学進学希望であった。学校側でも学内に居るそういう進学希望者のために、放課後などに特別に古典や英語、数学などの補習をしてくれたりした。しかし、当時の私は本当に真剣に大学進学は考えていないかった。工業科なので国立へ行ける程度の実力はなかったし、また今みたいに推薦などのうまい方法もないし、私立へ入れる家庭の経済的余裕など全然なかった。

田舎育ちでよく実情のわからなかつた甘っ

ちょろい考えの私は、英語の先生が大学進学の事を真剣に考えろと言ってくれたり、専門科の先生であったが、社会に出てからでは、なかなか勉強が出来ないと言ってくれたりもしたが、なあに社会に出てからでも勉強は出来るさと軽く考えていた。同じクラスの大学希望者はその頃から真剣に取りくんでいて、学校の授業を棄てて、進学の勉強ばかりしていたようだった。私はとりあえず就職することになり、今と違い、県庁・市役所・建設省受けければ何処にでも入れた。進学希望者の1人Mは大阪工業大学へストレートで入り、もう1人のSは1浪して、本学・広島工大に入学した。私は県庁に入ったのだが、県庁といっても出先の土木事務所であり、家から通えない処だったので、現在と変わらない自炊生活であった。社会に出てみて、高校の時、先

生の言った言葉が初めてわかった。残業は時々あるし、雑用も多い。夜になると日中の疲れが出て、なかなか勉強も出来なかつた。それでも進学の夢棄てがたく予備校の夜間部にも行つたが、程度が高くてついていけなかつた。それでも何とか格好をつけて、もちろん私立大学だが受験してみた。3流なら2~3合格したりしたが、目ざす大学は3度失敗した。こういうことではいけないと思い、退職して本格的にやろうと思った時には高校を出て5年の歳月が流れていた。そしてようやく本学に入学した訳である。思えば長い青春であった。甘っちょろい奴だと笑われるかも知れないが、悔いはない。それぞれ、その瞬間に、それがいいと思って、ベストを尽くしてきたのだから。もう卒業まであと1年。その時、初めて私の青春は終わる気がする。



## ヨーロッパ研修旅行案内

### 第2回欧洲理工学研修旅行カラ振りに終る

すでに会員の皆様、ご存じのことですが、昭和48年度末に、同窓会主催による第1回欧洲理工学研修旅行が催行され、その後の役員会でこの研修旅行についての反省および今後の方針などが検討された結果“種々の問題点はあった、がしかし、第1回のことでもあり、参加者も80名を越えますます成功ではなかったろうか、今後この経験を生かし、3年に一度くらいの割合で催行してゆき、逐次、中身の濃いものにしてゆこう。”おおよそ以上の内容が決議された。

今年度はその年に当り、日本交通公社と同窓会関係者（前回の関係者を含めた）との間で、研修コース、日程、訪問大学および工場先そして会員への連絡方法等を数回の会合を持ち検討し、その結果を役員会にはかり、今年度催行が決定した。ただ問題点として残ったのは、20日間という長期間日程であり、時間的に十分な余裕のない年令層を中心となつてゐる我々同窓会で、参加者が募れるだろうか。また、前回と違つて海外ブーム熱も下火あるいは経済状勢も前回程でない今年度、35名（ツアーコースの為の最低人数）の参加者が

募れるかどうかということであり。もう一つの問題は、事務及び経費の点で、たとえば支部に会員各位に連絡してもらう等の適切な方法を持たない同窓会としてはダイレクトメールによる他ないということである。時期的にみても、名簿の修正の最中にあったので、会員の中には不満の方の出るのを予想しながらも、手近なまた時間的に余裕のある準会員の呼びかけからスタートした。

結果は10月末の締切りまでに3～4名の参加申込のみで、その後の説明会に於いても、依然としてこの状態は進展せず、時間的余裕のもてる学生の参加者がこの程度であることからかんがみて（その時点での日本交通公社の使用実費のみでも相当額の赤字）前述した会員の時間的余裕を考え、会員のみから35名の参加者を望むのはむりだらうという結論となり、第2回欧洲理工学研修旅行は断念せざるを得なかつた。

この度の研修旅行催行の企画に関し、反省する点は多々あります。また紙面の都合もあり十分説明は出来ませんでしたがご報告致します。

# 広島工業大学同窓会会則

## 第一章 総 則

- 第1条 本会は広島工業大学同窓会と称する
- 第2条 本会は本部を広島工業大学内に置く、但し総会で必要と認めた場合に支部を置く事を得る
- 第3条 本会は会員相互の交誼を厚くし、かつ母校の発展に貢献することを目的とする
- 第4条 本会は前途の目的達成の為に下記の事業を行なう

### 1. 集 会

1. 会員相互の連絡並びに共助に関する事
1. 会誌、会報及び会員名簿の発刊
1. 母校に対する精神的・物質的援助
1. その他本会の目的達成に必要な事

## 第二章 会 員

- 第1条 本会は下記の者を以って組織する
1. 準会員 広島工業大学在学生、その他役員会で適當と認められた者
  1. 会 員 広島工業大学卒業生、但し広島工業短期大学卒業生を含む
  1. 客 員 母校職員及び旧職員

## 第三章 役 員

- 第1条 本会は下記の役員を置く

- |         |     |         |     |
|---------|-----|---------|-----|
| 1. 名誉会長 | 1名  |         |     |
| 1. 会 長  | 1名  | 1. 副会長  | 2名  |
| 1. 会 計  | 3名  | 1. 会計監査 | 3名  |
| 1. 幹事長  | 1名  | 1. 幹 事  | 若干名 |
| 1. 評議員  | 若干名 | 1. 書 記  |     |

- 第2条 本会の役員は次の方法で決める

1. 名誉会長は広島工業大学現学長を推す
1. 会長、副会長、幹事、会計、会計監査、評議員は総会で正会員の中から選ぶ
1. 幹事長は幹事の中から互選する
1. 幹事は総会の議決により母校出身の中から委嘱する

- 第3条 各役員はそれぞれ次の任務をもつ

1. 会 長 本会を代表し会務を統べる
1. 副会長 会長を助け会長に支障があるときは代理する

1. 会計 会計事務に当る

1. 会計監査 会計を監査する

1. 書記

1. 幹事長 会務を主掌する

1. 幹事 会務を処理する

1. 評議員 会務を評議する

第4条 役員の任期は一ヵ年とし再任をさまたげない、但し欠員は役員会にはかり補充しこれによって就任したものとの任期は前任者の残りの期間とする

#### 第四章 顧問

第1条 この会に顧問若干名をおく

1. 顧問は総会の議決により適任者を委嘱する

1. 顧問は会の諸間に応ずる

#### 第五章 会議

第1条 会議を分けて定期総会・臨時総会及び役員会とする

第2条 総会は最高の議決機関で毎年4月に開く臨時総会は役員会が必要と認めた時会長が招集する

第3条 総会は次のことを決める

1. 会則の変更と改正 1. 決算及び予算

1. 役員の改選 1. その他重要な事

第4条 役員会は会長が必要と認めた時招集し、次のことを決める

1. 総会に附議する原案 1. この会の運営に関する諸事項

1. その他緊急事項の協議

第5条 会議の議決は正会員の参加者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する

#### 第六章 会計

第1条 この会の会計細目は会計細則の定める所による。

## 計 報

### 客 員

久保 進 先生 (昭和51年9月3日)

永井 貳郎 先生 (昭和51年9月18日)

### 会 員

43年 川口 昌広 (電子) (昭和52年2月24日)

### 準会員

516126 渡部 豪 (昭和51年11月8日)

505153 芦迫 利夫 (昭和51年12月28日)



同窓会誌第11号発刊に当り、諸先生、諸先輩、各位の皆様に、お忙しい中原稿を出していただき深く感謝しております。

今後も同窓会発展のため、同窓会員諸氏の御協力を願い致します。

なお、本誌発刊において、期間と制約から、不備、不都合の点が多数あると思いますがお許し頂きたく存じます。

---

会誌発行者 広島市外五日市町三宅  
広島工業大学同窓会

表紙題字 広島工業大学学長  
鶴 襄

発行責任者 中原重男

編集責任者 土木工学科

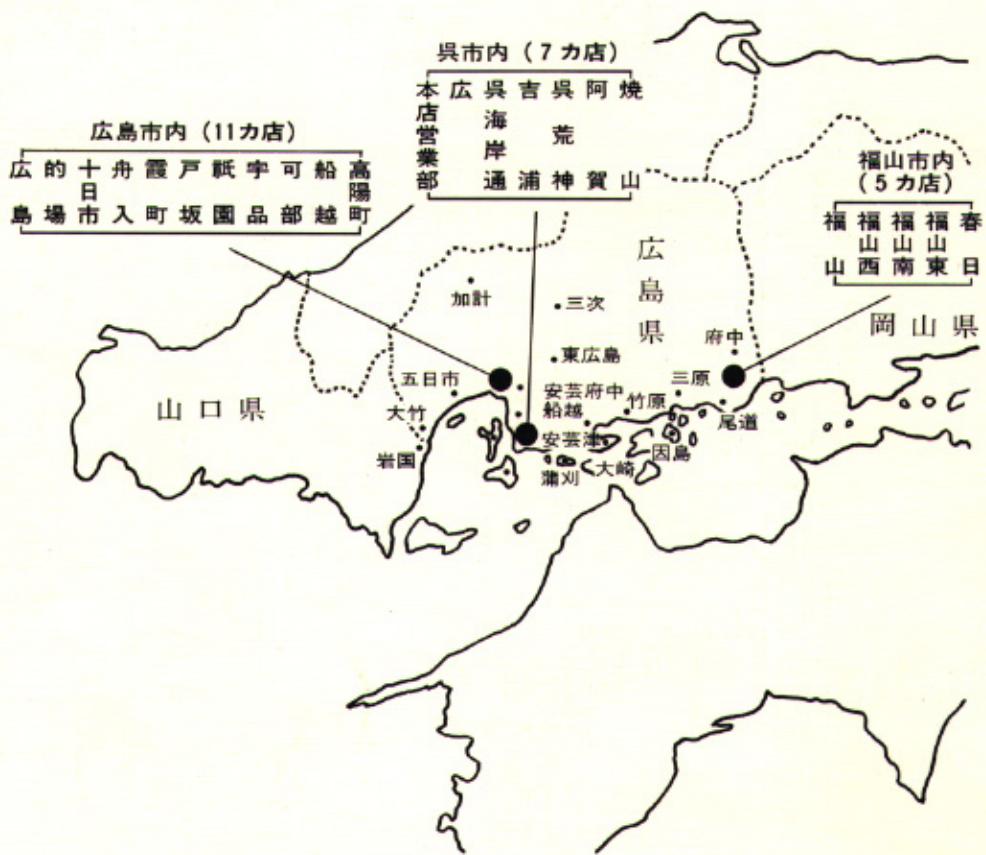
印刷所 広島電話印刷株式会社

広島県佐伯郡大野町太田新開6033

電話安芸大野(08295)5-2201㈹

---

## 伸びゆく 《くわぎれ》の店舗網



ゆたかなくらしのために…  
**呉相互銀行**

取締役社長 **力石一男**

本店 呉市本通2丁目  
 電話 (0823) 22-2222(大代)